

ASUKA

CLUB MAGAZINE

THE FINEST
VOYAGE
TOGETHER

ASUKA
CLUB
MAGAZINE

NO. 107

Summer 2023

目覚めてもつづく夢



Special
秋の日本一周クルーズ
Special
花火クルーズの魅力
Essay
佐治晴夫

Interview
石井竜也

Collection
クルーのフォーマルスタイル
飛鳥IIの絨毯
Foodie
焼きたてパン

2023年8月31日発行

発行/郵船クルーズ株式会社 ASUKA CLUB事務局
〒220-8147 横浜西区みなとみらい2-2-1 郵船ビル3F TEL. 045(640)5302
発行人/遠藤弘之
ホームページ <https://www.asukacruise.co.jp>



←開所式に先立ち
造船所のゲートに社旗を掲揚。
強風に泰然とはためく旗に
参加者一同は感無量でした。
→鏡開きで開所式は開始。
日本式の行事に、造船所から参加した
会長以下社員の方々は
興味津々でした。



飛鳥クルーズのホームページで
連載中の“A-TIMES”。もうご覧になりましたか？
毎回、新造客船の最新情報を発信するその第1回目は
ドイツ駐在オフィスの開所式の記事です。



ドイツ・パペンブルクで みんなの夢が 動き出しました!

5月の大空に社旗が揚がり、
喜びの中で
現地駐在オフィス開設。
新造客船の
建造工事に向けた
新たなスタートです。

2025年の新造客船の就航に向けドイツ、パペンブルクのマイヤー ベルフト造船所内に
現地駐在オフィスを開設し、2023年5月23日に開所式を執り行いました。
ここには部門ごとのスペシャリストが集まり、造船所と連携しながら船の建造を進めます。
いまは設計の詳細が固まり、これからは建造工程の検討に入ります。
9月にはスチールカッティングを行なって船底のブロックの建造がスタートします。
開所式には、参列したスタッフたちの、ここまで漕ぎ着けた安堵感と、
いよいよ始まる建造への期待感が重なって、活気にあふれる雰囲気が広がりました。

“A-TIMES”の連載記事はぜひホームページでごらんください。
My ASUKA CLUBにご入会いただくことで
A-TIMESでご紹介したプレゼントにご応募できます。お楽しみに!



number
107
summer
2023



4

Special Feature 1
秋の日本一周クルーズ

絶景は 海にあり

海からめぐる日本三景

Cruising Library ⑦

10 — ふたつのヴォヤージュ 佐治晴夫

Asuka Cruise Interview ⑥

石井竜也さん ——— 12

もっと知りたい飛鳥のこと ⑥

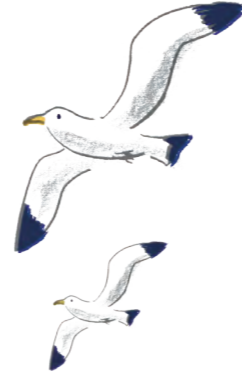
14 ——— ドレスコード

Special Feature 2

花火クルーズの魅力

洋上の特等席へ ようこそ

16



寄港地のいちおし ——— 18

19 — ASUKA
WALKING & RUNNING CLUB

飛鳥の美しいかたち ⑦

飛鳥IIの絨毯 ——— 20

工房を訪ねて③

22 ——— 村山 明

美食遊覧⑥

焼きたてパン ——— 24

Welcome Aboard

26 ——— ただいま乗船中

Online Shopping

ヴォヤージュサブレ ——— 28

Cruise Desk

29

Club Information

30



発行／郵船クルーズ株式会社
アスカクラブ事務局
〒220-8147
横浜市西区みなとみらい2-2-1
横浜ランドマークタワー47階
電話 045(640)5302
発行人／遠藤弘之
制作・編集／浪漫堂、アドレッサンス浪漫堂
AD+デザイン／岡本一宣デザイン事務所
写真／名取和久、坂本泰士、尾鷲陽介
イラストレーション／楠のぶお、高寄尚子

©郵船クルーズ株式会社
※本誌の記事および写真の
無断転載・複写をお断りします。

お客様の
笑顔が
私たちの
喜び
第六回

フィリピン クルーの お母さん

全乗組員を支えるクルーオフィスという部署で働いています。休暇から戻ってきた乗組員のパスポート、船員手帳などを確認し、避難訓練や緊急時に着用する帽子を渡したり、初めて乗船してきた乗組員に船内の生活指導をしたり。また、乗組員の息抜きのためのパーティーやビンゴ大会も企画します。私の仕事で一番大切なのは、みんなの悩みを聞いてあげること。恋の悩みから仕事のこと、体調のこと、故郷の家族のことまで。やはり一番多い悩みはホームシックです。若い子なら家族や友達と遠く離れているのがさびしいし、親であれば残してきた子どもを思って悲しくなる日もある。なるべくいつでも相談にのってあげるようにしています。私はみんなの母親みたいな感じで、船の中に大勢の子どもたちがいるんです。毎日忙しいですが、職場環境も気に入っていますし、飛鳥の伝統や日本的な価値観も私に合っているから、長く働けるのだと思います。



この船がつなぐもの。
それは目的地だけではありません。
たくさんの人生をつないで、喜びを紡いで、
飛鳥IIは海を航ります。

アシスタント
クルーオフィサー
ジンキー

マニラ近郊のカピテ出身。休暇中は普通のお母さんに戻って、料理、洗濯、掃除をして2人の子どもの面倒をみる。ディナーに行ったり、映画を観に行ったり、海辺でリラックスしたり、普通にみんなで過ごすことが家族をつないでくれている。

Photographs by Taishi Sakamoto

絶景は海にあり

海から
めぐる

日本三景

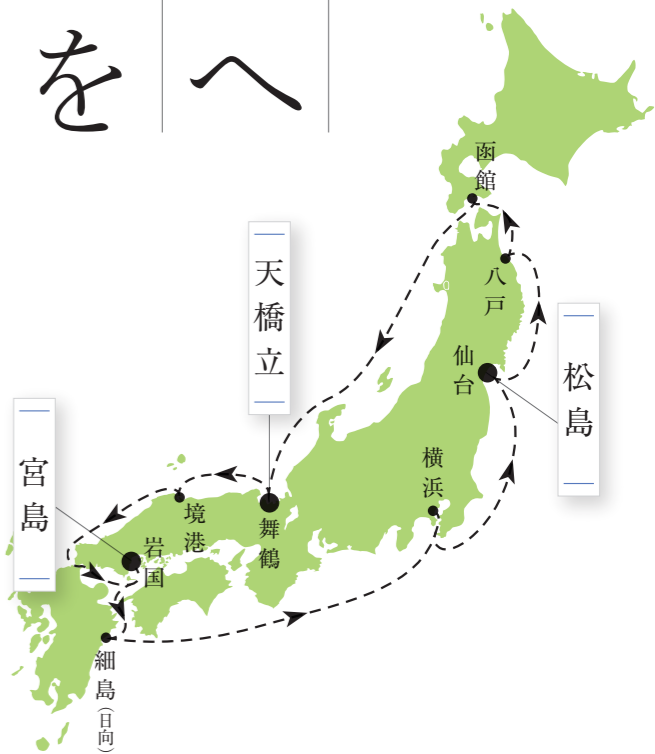


古くからその美しさを世に知られる、松島、天橋立、宮島。江戸時代の初め、儒学者の林春斎がこれらを「卓越した三つの奇観」としたのが「日本三景」のはじまりとされています。

三つに共通するのは、そう、海なのです。260もの緑の島々が海に浮かぶ松島、湾を横切る砂地に生えた八千本もの松がつくりだす天橋立、そして海を結界として海上に築かれた聖域、宮島。

日本人が美しさを感じる景観には、どうやら海と陸との黄金比が隠されているようです。この秋、飛鳥IIでその黄金比を確かめに行ってみませんか。秋はクルーズのベストシーズン。「秋の日本一周クルーズ」で、海から日本三景をめぐりましょう。

北から南へ 日本列島を ぐるり



13日間というほどよい日程に、日本列島の見所がギュッとつまった「秋の日本一周クルーズ」。一周してみると、日本列島のスケールを実感します。太平洋から日本海へ、北から南へと船が進むうちに海の色も変わり、空を行き交う海鳥や、潮の香りもどこか違って感じます。時は秋、クルーズのベストシーズンです。終日航海日は4日間、デッキで海を眺めながらのんびりと過ごすのも良いですね。

7つの寄港地も個性豊か。日本三景はもちろん、夜景の美しい函館、妖怪たちが出迎える境港、神話の舞台にもなった高千穂峡、五連のアーチが美しい錦帯橋、世界遺産・厳島神社などの見所が楽しみです。

Autumn Cruise

かの松尾芭蕉を絶句させた

松島

『奥の細道』冒頭で松尾芭蕉は「もも引の破れをつづり、笠の緒つけかえ、三里（健脚のツボ）に灸すゆるより、松島の月まず心にかかりて…」と書いています。旅の準備をしながら松島の月を思っ気もそぞろな芭蕉。これほどまでにあこがれていたのに、松島的美しさを前にして芭蕉は絶句してしまったのです。

260あまりの緑の島々が浮かぶ松島。地殻変動や海水面の上昇によって、約五千年前には現在のような多島海が生まれたと考えられています。松島の月は古くから歌に詠まれ愛されてきた名月。多島海に映る月と空に浮かぶ月との幻想的な美しさ、ここにも心を揺さぶる黄金比がありそうです。



松島へは仙台港からの寄港地観光ツアーで訪れることができます

Autumn Cruise

視点を
変える
見立ての美

天橋立

天橋立が現れたのは約2200年前と言われています。宮津湾の海流と阿蘇海の海流がぶつかる場所に砂が堆積して、徐々に長くなりその砂州の上に松が生えて現在のような不思議な景観が生まれました。

天橋立と言えば股のぞき。股の間から逆さに景色を見ることで空と海が逆転し、まるで空に架かる橋のように見えるのです。この股のぞき、2016年にイグ・ノーベル賞を受賞したことで世界的にも有名になりました。北側から見るとまっすぐに見える天橋立、南側から見ると曲がったところが天に舞い上がる龍のように見えます。庭園などでも自由に見立てを楽しむのが日本文化の特徴、さて何に見立てましょう。



天橋立へは舞鶴港からの寄港地観光ツアーで訪れることができます

Autumn Cruise

海の上に建つ
唯一無二の
造形美

宮島

平安時代後期、平清盛の援助を受けて、今日私たちが見るような朱塗りの回廊で結ばれた厳島神社の海上社殿は建てられました。厳島は「神に斎（いつ）く島に神に仕える島」から転じたとも言われ、古くから島そのものが御神体として崇められていたため、御神体を傷つけぬよう海上に社殿を建てたと伝わります。

瀬戸内の海面からそびえる朱塗りの大鳥居、御笠浜にせり出す社殿の背後には弥山の深い緑が広がります。見事なまでに計算し尽くされた、近寄りたがいほどの造形美です。潮の満ち引きによって刻一刻と表情を変える海の景観が、厳島神社の荘厳さを引き立てていることは間違いありません。



宮島へは岩国港からの寄港地観光ツアーで訪れることができます

ウィークエンドクルーズ みんなで踊り明かそう！ ディスコクルーズ

この秋も多彩なミュージッククルーズをご用意しています

60年代が音楽でよみがえる

飛鳥IIのステージにグループサウンズのスター達が大集結。60年代に若者に熱烈に指示されたグループサウンズの名曲と一緒に口ずさみましょう。常陸那珂からは連絡バスで秋に色づく海浜公園へも訪れていただけます。

グループサウンズクルーズ

10月3日(火)～6日(金)
横浜→常陸那珂→横浜
185,500円～903,000円

[シニア割引10%]
60歳以上のお客様は旅行代金が10%割引になります(客室S・Kを除く)



クラシック音楽と美食を楽しむ

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団でコンサートマスターを務めたダニエル・ゲーデ率いるカルテット「ゲーデ弦楽四重奏団」によるスペシャルステージを開催。ザットルテなどウィーンの代表的グルメリュムもお楽しみに。

神戸発着 秋の休日

ウィーンスタイルクルーズ

10月28日(土)～30日(月)
神戸→神戸
136,000円～662,500円



Skip Martin
singer, trumpet player

スキップ・マーティンさんによるステージでは、お客様も立ち上がりながら踊り出す

梅雨の晴れ間となった週末、飛鳥IIは横浜港を出港しました。比較的若い年齢層の方が多く感じましたが、昼間は普段のクルーズと変わらず、静かに思い思いに過ごされているご様子。ところが、夜になるとなやま雰囲気が変わってきました。

2日目の夜は80年代に数々の大ヒットを生んだ「クール&ザ・ギャング」、「ダズ・バンド」のリードボーカル&トランペッターとして活躍し、グラミー賞も受賞したスキップ・マーティンさんのステージ。後半、スキップさんが声をかけるとお客様も立ち上がり踊り出します。アンコールでは代表曲「セレブレーション」がかかり、ギャラクシーラウンジは興奮に包まれました。

ステージの後はクラブ2100のディスコナイトへ。盛り上がるお客様に交じってプロダクションキャストや乗組員の姿も。よく見ると、様々な世代のお客様がダンスフロアに。音楽に合わせて自然と体が動き出し、世代を超えてダンスの輪がひろがっていきました。

Photographs by Yosuke Owashi



ディスコから一転哀愁を感じさせるトランペットの演奏も

まだ眠りたくない時を忘れて盛り上がるディスコタイム



ゲストでも船内イベントでもクルーズを盛り上げます



クルーズディレクター 増田裕太

多彩なゲストの中でも、ピアニストの西川悟平さんは2018年の世界一周にも乗船していただきました。その時に「僕は東京パラリンピックで演奏します」と宣言されて、本当にそれを実現されました。7本の指で演奏するので弾き方もとても特徴的なのですが、すっかり日本を代表するピアニストになられて、飛鳥IIにまた戻ってきてくださるのが楽しみです。日本の伝統芸能はもちろん、ソプラノデュオ、バンドネオンに京劇などバラエティーに富んだゲストが揃いました。また、秋の終日航海日はプールサイドで運動会を開催しようかと現在企画中です。フォーマルナイトにはキャプテンズパーティも。久しぶりのお客様も多いと思いますので、楽しみにしていただきたいです。

秋の日本一周クルーズ

10月9日(月)～21日(土)
横浜発着

741,000円～3,612,000円

- 10/9 横浜
- 10/10 クルージング
- 10/11 仙台
- 10/12 八戸
- 10/13 函館
- 10/14 クルージング
- 10/15 舞鶴
- 10/16 境港
- 10/17 クルージング
- 10/18 岩国
- 10/19 細島(日向)
- 10/20 クルージング
- 10/21 横浜

[アスカクラブ特別割引15%]
アスカクラブ会員のお客様は旅行代金が15%割引になります(客室S・Kを除く)



太田裕美

みずみずしい歌声で紡ぐ青春のメロディ



西川悟平

魂を揺さぶる唯一無二のピアノ演奏



新山重治

中国料理「礼華」オーナーシェフ



新潮劇院

中国の伝統芸能「京劇」と太極拳の指導も



入船亭扇橋

昨年真打昇進と共に10代目扇橋を襲名



平田耕治

タンゴの情熱を伝えるバンドネオン奏者



山田姉妹

息ぴったり双子のソプラノデュオ

エンターテイメントも充実 食欲の秋、グルメにも期待

新たなゲストエンターテイナーの乗船も発表されました。寄港地から戻ったら、飛鳥IIの船内で心ゆくまでお楽しみください。

パワフルな歌声でお客様を魅了したアーティストの石井竜也さん。お仕事柄あちこちへ行かれるけれど、実は大の出不精だとか。飛鳥IIの船内ではどのようなお過ごしだったのか、意外なお話を伺えました。

石井竜也さん

15センチだけ開けたカーテンの間から日の出に染まる赤富士を見た

実 は飛鳥IIのこと、埠頭に建っているビルディングだとばかり思っていた。あれが船なんですって言われて、え？って。昨日はじめて分かったみたいな感じです。近寄ってみたらさらに大きい。お客様とクルーも入れたら最大で1200人ぐらいの人が乗れるなんて、完全に一つの街ですよ。でも僕はね、キャビンの中だけで十分飛鳥IIを満喫しましたよ。朝はカーテンを

15センチ開けてね、日の出に赤く染まる富士山がきれいに見えまして。普段だったら開けるのは10センチまでですから。景色の見方とか間違ってますよ、皆さんは開けすぎ。細いところから、広いところを見るのが良いんですよ。路地裏から空を見上げるみたいなね。そっちの方が僕は感性としては豊かなんじゃないかなと思う。僕はね、ハワイに行っ

てもそうですから。15センチ開けてハワイだなあと思ったら、もうパツと閉める。今日は天気が良いんだからとか言われるけれど、何が楽しんだらうって思うんですよ。人が多くてにぎやかで楽しそうなの、嫌いなんですよね。

仕事柄いろいろなところに行くけれど、ホテルに着けばそこが僕の世界。飛鳥IIのスイートは外国仕様ですね。浅くて長いバスタブはヨーロッパのメーカーものかなと考えたり。バスタブにもシャワーが付いているのに、別でシャワーブースもある。僕はバスタブの方でカーテンを開けてシャワーを浴びるのは違うんじゃないかなと思う。通はちゃんと歩いてシャワーブースで髪とか洗ってきれいにしてから、バスタブの湯船に入るのでしょ。それがやっぱり、日本の御作法ですよ。

昨 日もずいぶん考えましたね。このシャワーカーテンはどう使うのかなって。妄想がとまらなくなってもう実際に夫婦で泊まっている感じ。美人の奥様が「ねえ、ちょっとワイン飲まない？」とか話しかけてきて、ちょっとだけ閉めたカーテン越しに、「うん、分かっただも出るよ」みたいな会話がある。あれはね、全部閉めて身体を

洗うためのカーテンじゃないな。皆さん分かっているかな？是非、半分ぐらい開けて入って欲しいです。

飛鳥IIでオーストラリアへ行きたいですね。メルボルンやシドニーを巡って大陸をまるごと堪能する。寄港地も良いけれど、絶海を味わうのもクルーズならではの醍醐味だと思います。日本から南下するあいだは、何日も海だけでしょうね。映画「ACRI」をオーストラリアで撮影していた時、ホエールロード（鯨の通り道）にある小島へ行きました。そこに行く途中は陸がまったく見えず、船の先端に立つとちよつとぞつとするぐらい。夜なんか星空しかない。昔の人が星を指して航海したという感覚が分かる気がしました。泳いでくる鯨を撮ろうと波打ち際で待っていたら、親子鯨が近づいてきて撮影隊の前でぐるぐる回ったんです。その時、身体がぐんぐん動いて、とてつもないパワーを感じました。水圧もただけど、海という大きな存在を感じました。

ただもう海しかない。そんな絶海へまた行ってみたいなあ、そしてカーテン30センチぐらい開けて、顔ぐらいい出しても良いかな。

Photographs by Taishi Sakamoto



大きな船の中の僕だけの世界
飛鳥IIのスイートで
妄想がとまらない

クルーのフォーマルスタイル

初夏のクルーズ、終日航海のこの日のアスカデイリーに記されたドレスコードは「フォーマル」。そこで服装が切り替わる17時前に、パームコート、イースクエア、アスカプラザに居合わせたクルーの方々をハントして、フォーマルスタイルのスナップショットをパチリ。この日は夏らしい爽やかな、ホワイトフォーマルというスタイルです。



ホテルマネージャー



アシスタントホテルマネージャー



ソーシャルオフィサー



チーフパーサー



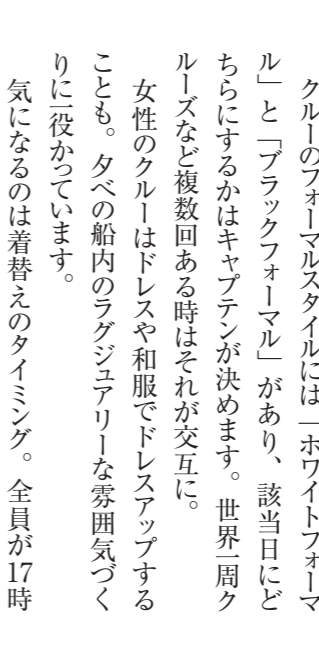
アシスタントパーサー



ハウスキーピングマネージャー



ショップマネージャー



メイトルドテル

クルーのフォーマルスタイルには「ホワイトフォーマル」と「ブラックフォーマル」があり、該当日にどちらにするかはキャプテンが決めます。世界一周クルーズなど複数回ある時はそれが交互に。女性のクルーはドレスや和服でドレスアップすることも。夕べの船内のラゲジュアリーな雰囲気づくりに一役かっています。気になるのは着替えのタイミング。全員が17時にはフォーマルスタイルになっているように、各々が自身の勤務時間に合わせて着替えるそうです。お客様とクルーが一緒につくりだすクルーズならではの特別な時間。ドレスアップして過ごす一夜を、次のクルーズでぜひお楽しみください。



アシスタントメイトルドテル



アシスタントメイトルドテル



アシスタントクルーズディレクター



ジュニアアシスタントクルーズディレクター



クルーズスタッフ



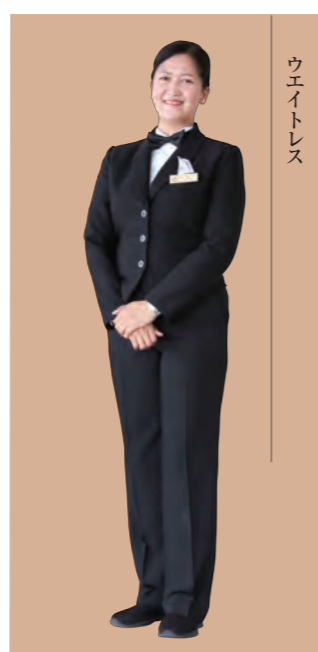
ヘッドウェイター/ソムリエ



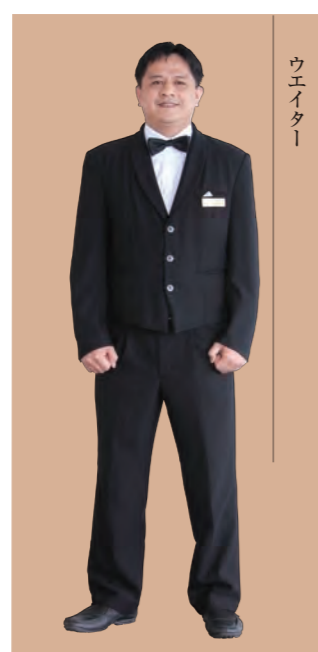
ヘッドウェイテス/ソムリエ



チーフウェイター



ウェイテス



ウェイター



ヒミグリーダー

花

洋上の 特等席に ようこそ

打ち上げ花火のある夏が帰ってきました。見物客でいっぱい陸上から離れて、遮るもののない洋上の特等席から存分に楽しむ飛鳥IIの花火クルーズ。打ち上げの時間に合わせて、思い思いの浴衣姿でデッキに集まるお客様。船の間近で上がる迫力ある花火に歓声があがり、お祭りムードのプールサイドには笑顔があふれています。日常の喧騒を離れて、クルーズでしか味わえない時間を満喫できるのが花火クルーズです。まだ経験されてなければ、次の夏にぜひ。



定番の花火クルーズをご紹介します



↑ 阿波おどり・高松花火クルーズでの観覧

瀬戸内の夏を彩る花火大会。スターマインや大玉など、3,000発の花火が息つく暇なく海上に打ち上げられます。船上からは海面に映る花火が迫力満点です。



↑ 日南花火クルーズでの観覧

三方を山に囲まれた油津港に迫力ある花火の音が響き渡り、その輝きとともに夏の夜を盛り上げます。飛鳥IIの船上から眺める約1万発の花火は壮観です。

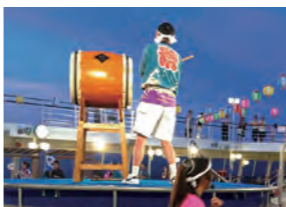
↑ 伊東花火クルーズでの観覧

徳川家康の外交顧問、三浦按針の功績を称える祭りのフィナーレを飾る花火大会。海上5か所から次々に打ち上げられ、船上はまさに洋上の特等席です。



↑ 鳥羽・熊野大花火クルーズでの観覧

熊野の300年以上続く伝統の花火大会。海面に咲く巨大な半円形の「三尺玉海上自爆」や名勝鬼ヶ城の反響音が大迫力の「鬼ヶ城大仕掛け」など見どころ盛り沢山。



船上緑日や盆踊りで夏祭り気分。ドレスコードはサマーカジュアル、浴衣でどうぞ。

飛鳥IIのお客様のために打ち上げる

飛鳥夏花火の 舞台裏を 訪ねました。

昨年「のんびり秋旅クルーズ」においてサプライズで催され大好評だった飛鳥花火が今年も「夏休みウィークエンドクルーズ」で企画されました。洋上の飛鳥IIから観覧する飛鳥夏花火は、各地の花火大会を訪ねる他の花火クルーズで観る花火とは違って、許可を得た場所から飛鳥IIのお客様のためだけに打ち上げる花火です。今回はその舞台裏である花火工場を訪ねお話を聞きました。

※第1回目の開催は昨年10月10日、花火工場の取材日は、第2回目の飛鳥夏花火が行われる前月、7月4日でした。

花火玉づくりの工程

飛鳥夏花火の製造と打ち上げを担当するのは株式会社マルゴーさん。工場は山梨県の四尾連湖に程近い山あいの場所にありました。



1

星掛け

星と呼ばれる玉状の火薬の層を作っていきます。火薬をミキサーで水練りし、回転釜を使って丸く均一にします。



2

星乾燥

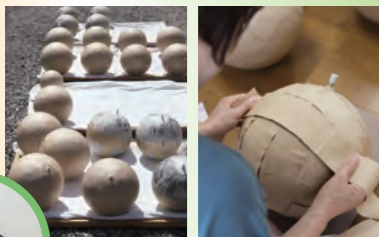
星を乾燥室や天日でしっかりと乾燥させます。種類や大きさによって、星掛けと乾燥を何度も繰り返しながら調整します。



3

玉込め

半球状の玉皮に星を隙間なく詰めます。中心には花火玉を破裂させるための割薬を詰め、2つの半球を合わせ花火玉にします。



4

玉貼り

半球の合わせ目をつなぎ、クラフト紙を玉の表面に厚みが均等になるよう貼り付けていくことで強度と反発力をつくります。

最初の 開催は サプライズで

インタビュー

多くの人が集まって一緒に笑顔になれる点が花火のいいところ。その長所がコロナ禍で短所になってしまいました。郵船クルーズさんも同様な状況の中で、お客様に楽しんでいただける何かを探していた。そこで縁あって実現したのが飛鳥花火でした。昨年の1回目はお客様に告知されていない、まったくのサプライズ。西伊豆にある漁港のひ



齊木智子さん
(株)マルゴー 代表取締役

とつに許可をいただき、スタッフは港の突堤でスタンバイ。飛鳥II船上からの発令で点火。お客様に弊社の特長である色鮮やかな花火の数々を大変喜んで頂きました。飛鳥花火は今後も続く予定と聞いていますので、旅の思い出としてぜひとお客様の心に残るような花火を打ち上げたいと思います。ぜひご期待ください。

西伊豆

伊豆市
下田市
土肥
松崎町
石廊崎



飛鳥IIが現地に近づく時刻に合わせて打ち上げの準備が行われます。



ASUKA WALKING & RUNNING CLUB Vol.1

朝の1マイルで健康へぐっと近づこう

歩いて、走ってデッキを回れば飛鳥IIも世界を回る

早朝の人気プログラム「ウォーク・ア・マイル」は、客船で初めて「ヘルスツーリズム認証」を取得しました。フィットネスインストラクターと一緒に1周440メートルのプロムナードデッキを4周(=1マイル)歩きます。海の向こうを眺めたり、おしゃべりしながら歩いているとあっという間。季節によってはちょうど日の出が見られたり、時にはイルカの群れがジャンプしている姿を見つけることも。まさに、早起きは三文の得。そして、歩いた後の朝食がまた一段と美味しく感じられます。



Let's Walk!

原則左回り、前方は強風にご注意

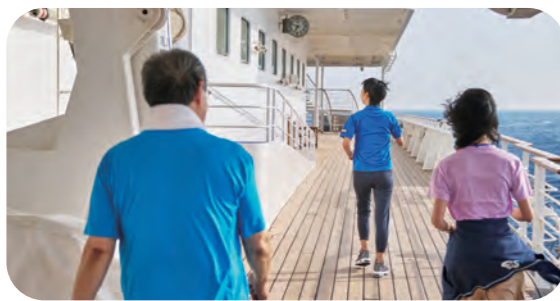


おはよう!とイルカもジャンプ



胸に目があるイメージで姿勢良く、つま先をあげて踵から着地しましょう。しっかり腕を振って、肩甲骨を動かすように。早く歩く必要はありません。余裕があれば42分ぐらい歩くと、酸素が体にゆきわたります。風の強い時はなるべく壁側を歩くようにして、無理せずご自分のペースで気持ちよく歩きましょう。

西村千絵 2017年春から飛鳥IIに乗船。それ以前は宝塚歌劇団宙組の男役インストラクターとして活躍していた。



おとなりの方とお話できるぐらいのペースで



歩く前の準備体操は忘れずに

Let's Run!

CREW RUNNER 編



ランナーに人気のマリポートかごしま

健康維持とリフレッシュのため、乗組員も休み時間を利用してランニングを楽しんでいます。日本をそして世界を飛鳥IIとともに旅する乗組員のランニングエピソードを聞きました。

野村プロビジョンマスター

いつも30分ぐらい走ります。一番思い出に残っているのは南極・南米クルーズ。南米大陸の南端、ウシュアイアで海沿いを走ったり、南極大陸を眺めながらデッキを走りました。



亀山クルーオフィサー

鹿児島港は乗組員に人気のランニングスポットです。1周1キロのランニングコースがあるので、和食の内膳シェフと一緒に1km/6分ペースで10キロ走ってきました。



日南油津

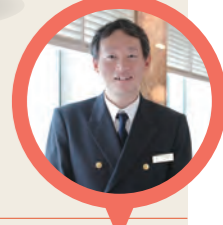
九州の小京都・日南の中心地



「とむらのタレ」

クルーが見つけた 寄港地のいちおし 日南市 第一回

ホテルマネージャー 小川智也さん



クルーズで油津(日南)に寄港する際には「必ず、とむらのタレ」を買ってきて」と家族から厳命が出ます。忘れると大変です。正式な商品名は「戸村本店の焼肉のたれ」。宮崎県では知らない人がいないほどのソウルフード(タレ)。県内のあちこちにある「スーパーとむら」で買えるのですが、タレのコーナーがどーんと常設されているほどの人気商品です。タレは種類があるのですが私のおすすめはスタンダード。濃いめなんです。フルーティで甘さがしつこくありません。なんと、バナナが入っているんです。バーベキューや鉄板焼きにはもちろん、妻は料理の隠し味に使ったりサラダに使ったり重宝しているようです。常温で持ち運べるのでクルーにもおみやげとして大人気。全国発送もしているようなので、リピートもできますね。

スーパーとむら 日南店



焼肉のタレを購入がてら、城下町探索はいかがでしょうか。

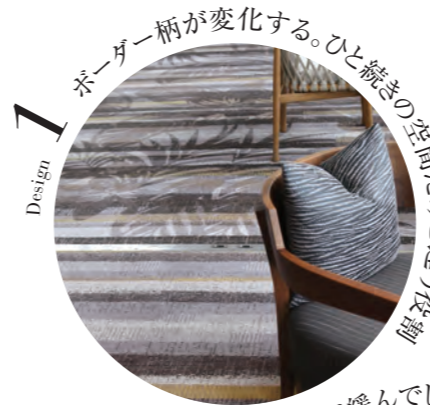
訪ねてみました。とむらのタレは日南市内に複数ある「スーパーとむら」で購入できます。油津港の最寄りには油津店がありますが、取材班は少し足を延ばしてタクシーで片道20分ほどの城下町・日南へ。こちらの日南店は街の景観になじむように外観に瓦があしらわれています。店内を探すまでもなく、目をひく緑と赤と金のパッケージが取材班を迎えてくれてミッション完了。お店を出れば街並みはまるで時代劇の中です。ここ日南は九州の小京都と言われ、280年にわたり伊東氏の居城があったところ。焼肉のタレを購入がてら、城下町探索はいかがでしょうか。



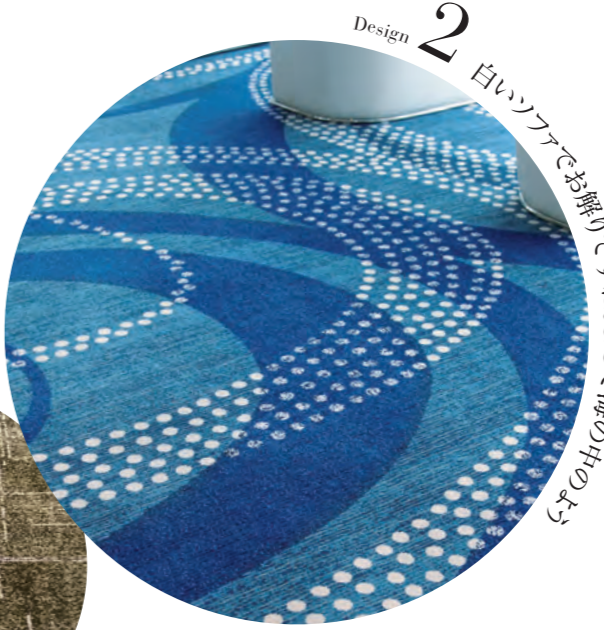
Design 9 3カ所のエレベータは微妙に柄違い



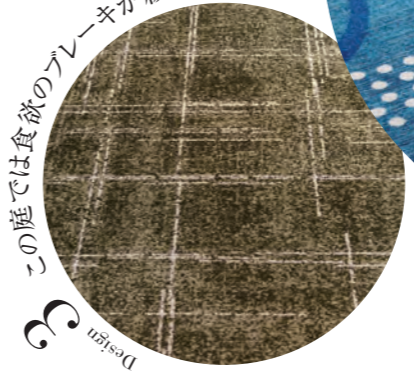
Design 10 洋上できらめくスターたち



Design 1 ボーター柄が変化する。ひと続きの空間だけと違う役割

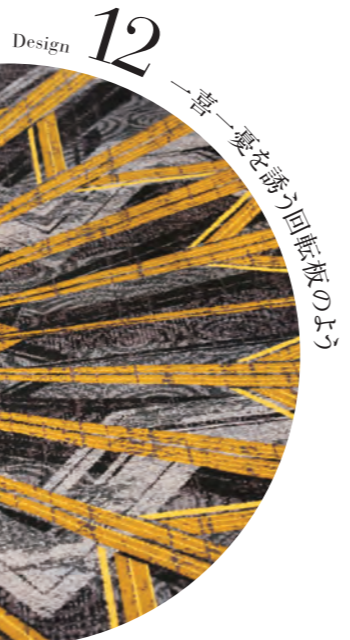
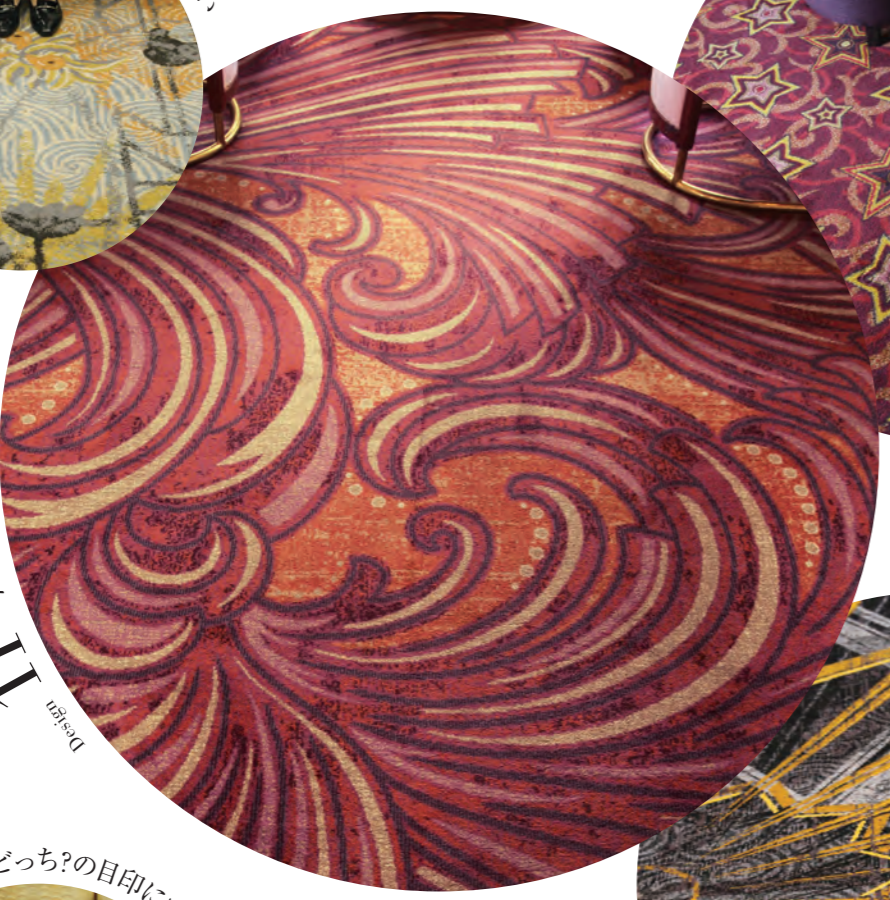


Design 2 白いソファでお解りですね。まるで海の中のよう

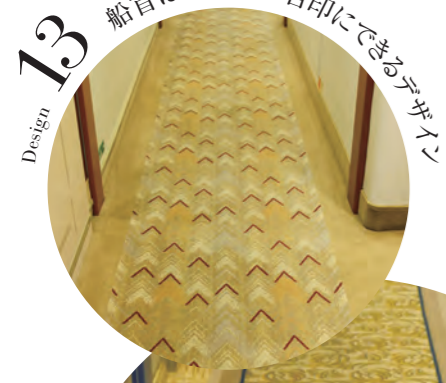


Design 3 この庭では食欲のプレーキが緩んでしまう

Design 11 今宵はフレンチ?それとも?



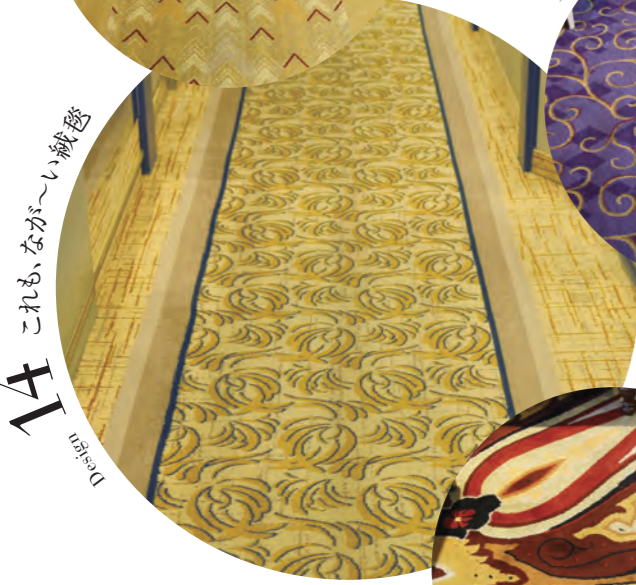
Design 12 一喜一憂を誘う回廊板のよう



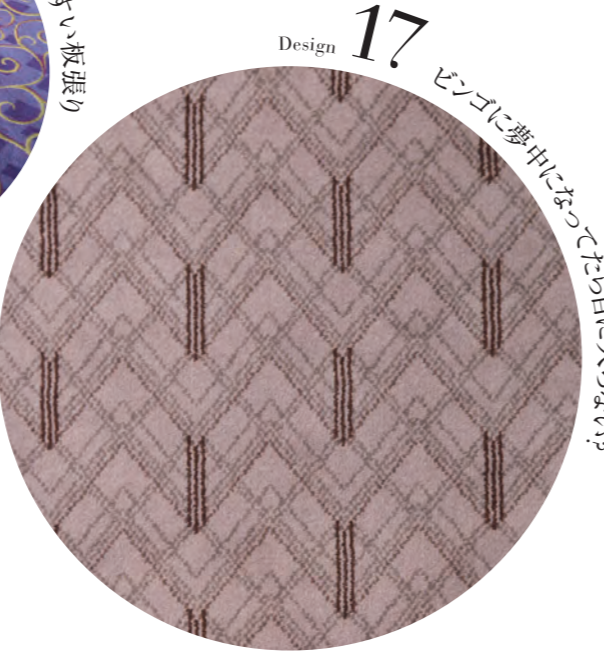
Design 13 船首はどっち?の目印にできるデザイン



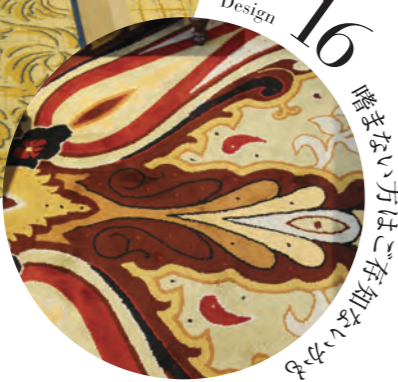
Design 15 中央のスペースは踊りやすい板張り



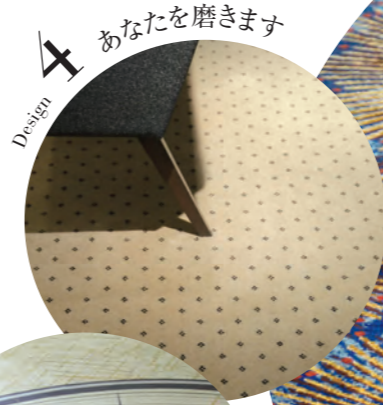
Design 14 これもなが〜い絨毯



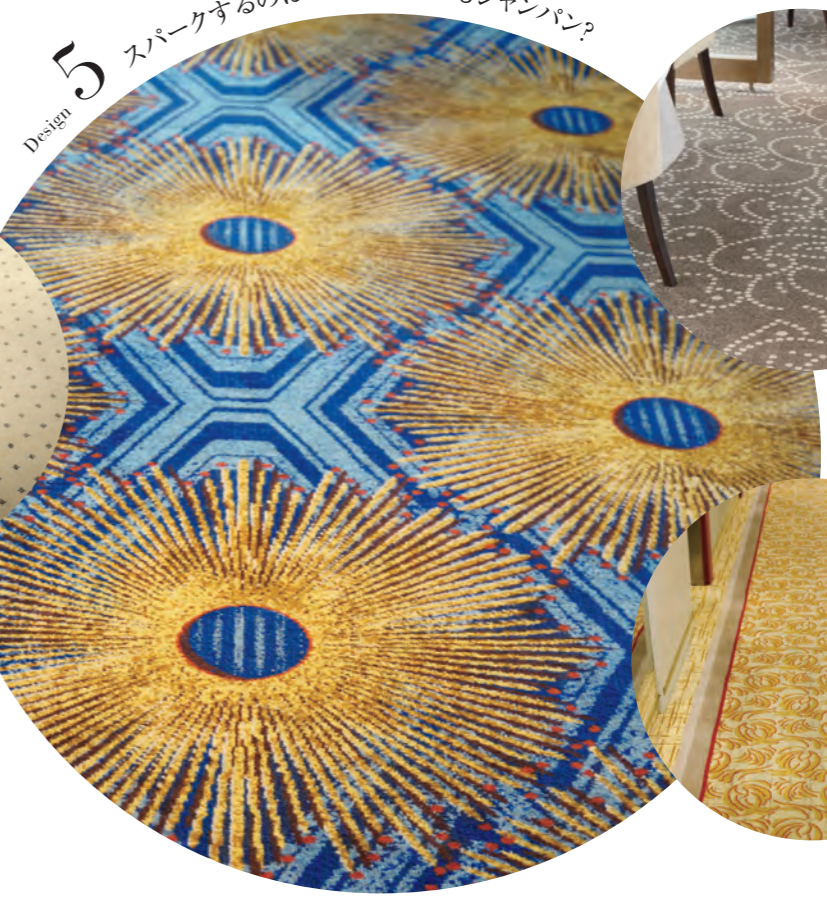
Design 17 ビンゴに夢中になってたら目に入らない?



Design 16 暗まない方はご存知ないかも



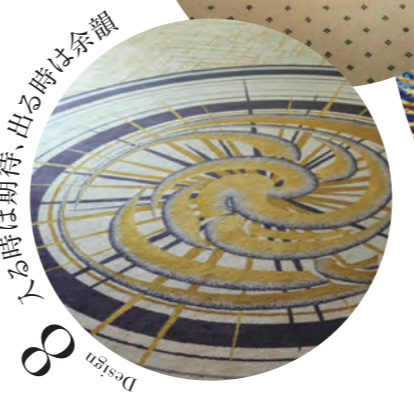
Design 4 あなたを磨きます



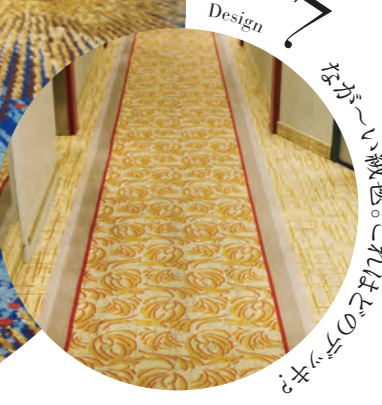
Design 5 スパークするのはジャズ?それともシャンパン?



Design 6 特別な空間に遊ぶのは鳥?



Design 8 入る時は期待、出る時は余韻



Design 7 なが〜い絨毯。これはどのチャキキ?

飛鳥の美しいかたち

Collection 7

飛鳥IIにはさまざまな美が、さりげなく息づいています。その背景にあるストーリーを知られば確かめたくなくなるはずです。

飛鳥IIの絨毯

飛鳥IIのさまざまなスペースに敷かれている絨毯。空間の役割や演出に応じて、それぞれに吟味されたデザインが施されています。パブリックスペースの中の一部ですが、それでもこれだけのバリエーション。さて問題です「このデザインはどこの絨毯でしょう」。見覚えはあってもなかなか難しい。正解は別ページにあります。まずはチャレンジしてみてください。

← 正解は29ページへ

工房を
訪ねて
第3回

職人の分業で作られていた
指物、刳物から工芸作品へ

よく京都には千二百年の文化があると言いますが、木工もその中で発展してきました。昔は指物師、刳物師、彫物師などと言われ、分業していました。私の師である黒田辰秋は京都の塗師の家に生まれ、職人たちが分業で生み出す作品が絵画などの芸術より低く見られることへの反発もあり、全てを一人で行う工芸作家を目指しました。やがて民藝の流れが生まれ、分業ではなく個人として工芸作品を作る作家が出てきたのです。

しつとりと光をおびて

浮かびあがる木目

朝鮮の古いもので、麻布で漆を拭いたような松材の米びつを見たことがあります。日本には何も塗らない白木の椀と、漆にくぐらせた塗り物の椀はありましたが、拭漆の原型はありませんでした。黒田辰秋がその拭漆の技法を発展させたのですが、当時はよい研磨剤がなく砥石を使っていたので初期の作品はかなり粗いものでした。

では、現在の拭漆はどうやって作っているか。木地に生漆を塗り、布で漆を拭いてから耐水ペーパーで研ぐ。また生漆を塗っては拭き、さらに細かい耐水ペーパーで研ぎます。これを二十回以上繰り返すと、透き通るように木目が浮かびあ

村山明



水を張ったかのように艶やかに
浮かびあがる木目。漆をすり込んで研ぎ、
また漆をすり込むことを繰り返して
生まれる「拭漆」の美です。
京都宇治へ人間国宝・村山明氏の
工房を訪ねました。

がつてきます。

なぜ透明感が出るのかというと、粒子の細かい耐水ペーパーで研いでいくことで木地の表面の凹凸が細くなり、そこに生漆をすり込むと表面が堅くなります。ツルツルで堅いものは光を反射するので、艶やかに木目が浮かびあがって見えるのです。

指先がふれた時の
やわらかな曲線とふくらみ

設計図みたいなものは作りません。手描きで簡単な型紙（平面図）を作って、寸法は決めますよ。長さだけは後で変えられないですからね。例えば机の脚を削るとき、木目を見な

がらどういう厚みを作ろうかなと、考えながら叩いて（ノミで削って）いきます。直角、直線よりはどこかに曲線やふくらみをもたせたい。いつも、すつと伸びやかにしようと思いがら、削っては撫でて形を決めていきます。

飾るだけではなく

暮らしの中で使ってほしい

飛鳥Ⅱに展示している拭漆白檀塗の重箱も、よく見ると上の方がすばまっています。普通、指物であれば直角が基本ですが、あえて角度を少しずつ変えて蓋がぴたりと合わさるようにしています。

内側には金箔をはってその上に、赤のため漆を塗った白檀塗なので、汁物などでも安心して入れられます。三段になっているので、家族二人ずつのお重盛りにするのも良いと思います。あるいは、内側にビロードの布を敷いて、小物入れなどにも使えるでしょう。飾るだけでなく、日常の暮らしの中で使っていただきたいです。



Vol.03

京都宇治
木工

Akira Murayama

すつと伸びやかに
したいと思って
削っては撫でている

食事は船旅の大きな楽しみの一つ。かねてより国内外の食通を唸らせてきた日本郵船の客船。その伝統を継承する飛鳥IIの「美食」を巡ります。

ベーカリーのリノはこの道20年以上のベテラン。フィリピン人の中で唯一アシスタントシェフを任されています。ベーカリーの仕事は午前4時45分に始まります。前夜までに仕込みをして、ホイロという発酵機に並べておいたパン種を取り出して、オーブンに並べます。焼き上がった朝食用のパンは、11デッキのリドカフェ&リドガーデンへ。食パン、フランスパン、クロワッサン、レーズンやチョコの入った甘いデニッシュ、そしてあんパンなどが並びます。朝食の間も、「チリン、チリン」と鐘を鳴らしてオーブンから焼きたてパンを補充します。あらかじめ決まった量を焼き置きすることはせず、焼きたてのパンを召し上がっていただきたいという思いです。



ベーカリー

リノ

2009年からベーカリーとして乗船。フィリピンでも奥さんと小さなパン屋を営んでいる。4人の子どものうち、最近息子がアメリカの大学に進学した。

飛鳥IIの4デッキにあるベーカリーは休むことはありません。昨年新しくなった2台の大きなオーブンはフル稼働です。朝食用のパンを焼いている間に、今度はお昼のパンの仕込みを行います。昼食のビュッフェではカレーライスなども人気ですが、パンを召し上げる方もいらっしゃるので5種類ぐらいのパンを用意しています。お昼が終われば、ディナーの準備。バゲットは午前中に生地を棒状にしておき、午後3時から発酵にかけます。4時半にはオーブンに入れて、20分で焼き上がると熱々の状態でギャレーへ運び込み、切り分けたらすぐに一回目のディナーのお客様へとサーブされます。

飛鳥IIで一番人気なのはなんと言ってもあんパンです。小ぶりなのに、あんこはたっぷり。定番のバゲットやクロワッサン、各種のデニッシュなども人気です。どれも小さめなので何種類か楽しめますね。他にもフィリピンでよく食べられているスパニッシュブレッドなども、陸ではなかなか出会えないパンなので船上で召し上がってみてください。



もう一つ、と手が伸びる
飛鳥IIのパンたち
あたたかいうちに
どうぞ召し上がれ



クロワッサン

小さめのクロワッサンなら罪悪感も控えめ



全粒粉ブレッド

小麦の味がしっかりと
お口にひろがります



ソーセージパン

上にちらしたゴマもソーセージの味をひきたてます



レーズンデニッシュ

デニッシュ生地に巻いたレーズンがほんのり甘い



食パン

トースターで焦がさないようにご注意ください



あんパン

人気ナンバーワンの飛鳥II特製あんパンは粒あん



オートミールブレッド

全粒粉のパンにオートミールでとってもヘルシー



あんデニッシュ

洋かと思えば和チョコデニッシュと見間違えないで



バゲット

外はパリッと中はしっとりのバゲット



カスタードデニッシュ

まんなかにはカスタード甘さもふんわり



ロールパン

目立ちませんがいつもディナーでお会いしますね



スパニッシュブレッド

砂糖をまぶしたパン粉が入ったスパニッシュブレッド

おうちでもっとASUKA II

缶を開けた瞬間に 笑顔と夢がひろがる ヴォヤージュサブレ

楽しかった旅の思い出を、お家に帰ってからもお友達やご家族と共有することができるのがお土産。この夏、飛鳥IIオリジナルの新たなお土産が発売されます。ショッピングマナージャーと

して飛鳥IIで働いていた今井悠華さんは、現在陸上のホテル部で商品開発に携わっています。今までにない商品を作ってお客様に喜んでいただきたいと思っていた今井さんがプライベート

トで偶然入ったのがサブレミシェルというお店でした。中でも「ヴォヤージュサブレ」というシリーズは、宝箱のようなかわいらしい缶にミシェルという女の子が世界を旅して見つけた素敵な景色や思い出がサブレになって詰められていました。「旅のワクワクが伝わるなんて、とてもすてきなアイテムです」と今井さん。そして今回、ミシェルが飛鳥IIに乗って旅に

出る飛鳥IIオリジナルの商品を開発することになったのです。缶のデザインにもこだわり、ワンピースに麦わら帽子、旅行カバンを持ったミシェルが飛鳥IIで旅に出るシーンを描きました。

今井悠華さん
ホテル部MDチーム



飛鳥IIに乗って
ミシェルは
どんな旅の思い出を
見つけるのでしょうか

PICK UP!

缶を開けた瞬間に、ふわっと笑顔がこぼれるサブレの中身は、飛鳥IIオリジナルでつくった船体、幸せの象徴クローバー、ミシエルのかわいらしいイルカ、そして華やかなバラなど。さくさく食感のサブレは絵柄によってビスタチオやカカオ、アールグレイ、イチゴ、バター、ブルーベリーなどのフレーバーが楽しめます。



VOYAGE SABLE

飛鳥II オリジナル ヴォヤージュサブレ

価格 1,944円(税込)

Cruise Desk

クルーズデスクから

クルーズコーディネーター

江頭紀光子



郷土の大花火を観ていただきたい！ 初代飛鳥シェフの提言で生まれた 大迫力の「熊野大花火クルーズ」

初代飛鳥の時代から夏の花火クルーズは大人気ですが、その中の一つ、「熊野大花火」についてご紹介いたします。今こそ熊野大花火の当日は熊野沖に外国船を含め客船が集結しますが、そのきっかけを作ったのは初代飛鳥で当時シェフをしていた人物でした。シェフは熊野の隣町である尾鷲市に住み、子供の頃から8月17

日は家族総出で隣の町の花火を観に行くのが恒例でした。その熊野大花火を海から観られたらどんなに素晴らしいだろうと夢を思い描いていたと言います。その少年がやがて客船のシェフとなり、夢に描いていた花火クルーズのアイデアを会社に提言。丁度その年の花火直前に名古屋へ出張の予定があった私が、

熊野大花火を観察する幸運に恵まれ、シェフが熱く語っていた大花火を生で観て、「確かにこれはスゴイ」と感動と共に体感したのでした。水面に大輪の花のように広がる独特の花火や、洞窟から上がる打上花火の大音響は他では感じた事のない迫力でした。ちなみに洞窟から上がった打上花火はあまりの音響で洞窟にヒビが入り、現在は洞窟の横から上がっているのだとか。打上花火は初盆を迎える家々が慰霊の思いを込めて提供する風習だそうです。花火と慰霊は相容れない感じがしてし

まいますが、「花火のような人生」とも例えられるように、美しく昇華して散っていく花火と人生の最期を重ね合わせ故人を弔うと同時に、「花火のような人生」を願う人間の願望も込められているのかも知れません。30年近くも前、当時のシェフの提言から生まれた飛鳥の「熊野大花火クルーズ」はシェフの郷土愛の賜物であり、飛鳥クルーズの歴史にこれからも刻まれていきます。夏の花火を観るクルーズは今後も計画されると思いますので、是非ともご体感ください!!

おまかせデスクの笑顔さん⑦

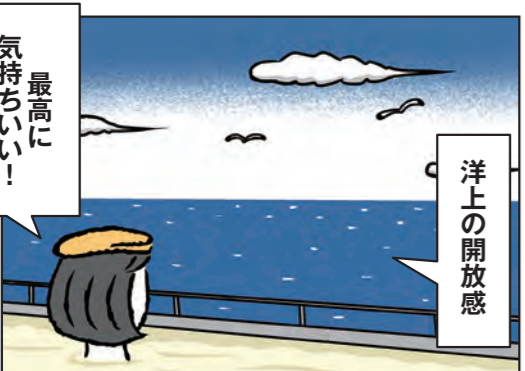
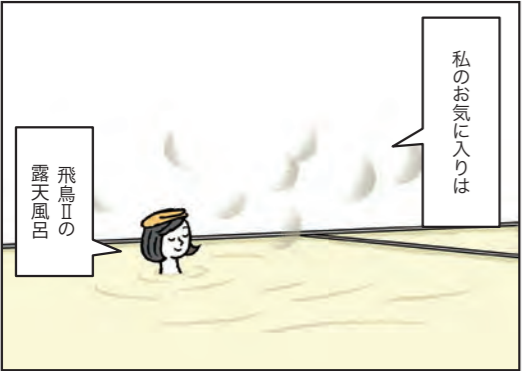


Illustration by Nobuo Kusunoki

- 20ページの美しいかたち
- 「飛鳥IIの絨毯」の正解
- ①イー・スクエア&パームコート ②ビスタラウンジ ③リドガーデン ④アスカ アヴェダ サロン&スパ ⑤ピアノバー ⑥ザ・バー ⑦7デッキ廊下 ⑧ギャラクシーラウンジ入り口前 ⑨中央エレベーター ⑩ギャラクシーラウンジ ⑪フォーシーズン・ダイニングルーム ⑫モンテカルロ ⑬10デッキ廊下 ⑭8デッキ廊下 ⑮クラブ2100 ⑯スモークラウンジ ⑰ハリウッドシアター
- ※なお改装等により絨毯が変更になる場合があります。

掲載商品のお問い合わせ、ご購入は「飛鳥クルーズオンラインショップ」まで

<https://www.asukacruise.shop/>

